

第 47 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	稲田ゼミ II	チーム名	義久 SS
タイトル	人口減少に挑む-インバウンドからのチャレンジ-		
テーマ群	b)財政・金融、e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>〈背景〉</p> <p>私たち稲田ゼミでは、2年にかけて関西の経済について調査してきました。関西には2府4県の都道府県があり、関東地方に続く、2番目に大きい経済規模を有している地域です。2017年現在の日本のGDPは、546兆円であり、関西地方はその15%、約80兆円の付加価値を生産しています。しかし、日本全土で急速な人口減少が顕著であり、GDPの伸び率向上に歯止めがかかっている状況です。関西の自然増減を見ると2008年以降死亡数が出産数を上回る自然減少が見受けられます。その自然減少率は年々増加しており日本の平均減少率を上回る速さで人口が減少しています。</p> <p>そこで私たちが着目した点は訪日外国人による経済効果です。関西に来る外国人は年々増加しており、2016年度の関西国際空港への訪日外国人数は関東の成田空港や羽田空港を差し置いてのトップとなるほどです。この数字だけを見ると“外国人によるインバウンドが関西のGDPを支えている！関西は観光が盛んだ！”と認識してしまうかもしれません。実際にデータを通してインバウンド効果をみると2016年の関西の訪日外国人によるGDP産出額は約8000億円程度です。これは関西のGDP80兆円の1%に匹敵します。全国平均よりも高い値です。2020年の東京オリンピックや大阪万博の開催などが関西経済の向上につながると考えられていますが、それは短期の見込みでしかありません。インバウンドの効果を長期的にもたらすためにも、関西はより具体的な観光戦略を練る必要があります。</p> <p>そこで私たちはインバウンドからの経済成長について問題点を探りさまざまな解決策を講じるべく議論してきました。</p> <p>〈発表内容〉</p> <p>私たちのインナーゼミナールでの発表内容は、どのようにして訪日外国人を増やし、関西に更なるインバウンド効果をもたらすことができるのかを論点とし、過去の統計やデータを用いて将来的な関西の展望を“インバウンド”の視点から展開していきます。</p>		